

## 「その銃弾は止まるか（仮）」第一話プロット、展開例

### 【第一話 時を止めた男】

彼女を怒らせてはならない。  
久しぶりに会えるデートなのだ。  
もう彼女は到着している。  
しかしどう考えても間に合わない。  
時間を止める力が俺にあれば……！

そこに突然グラウンドのサッカーボールが飛んできた。  
俺は思わず「にゃん！？」と変な声を上げ、へんなポーズをしてしまう。  
おや？ サッカーボールが空中で止まっている。  
触ったらまたボールは動き出した。これは一体どういうことだ……？

(暗転、人込み)

まさか……と「にゃん！？」と変なポーズを試みる。  
人込みが全員停止する。  
「俺に時間を止める超能力が……？」  
ハゲの人をからかったり、美女のスカートの中を覗こうとする男。  
(ここでARカメラをぐるぐる回して楽しめるように。毎回主人公の時を止めるわくわくと一致するような感覚に)  
「いかん、デートに急がねば……！」

(暗転、デートを楽しむ男)

彼女と歩いている。デートに間に合ったのだ。  
隣に歩いている美女に目移りして彼女に怒られそうになると、  
男は時を止め、美女を見まくってから時を戻し、  
「きみ一筋だよ」などという。

また美女が来たので時を止める。  
腕を組んでいるのは怪しげな男。  
タブレットを持っているので覗きこむと、「首相暗殺計画」とある。  
……俺は変な秘密を知ってしまったのか？

### 【第二話 彼女に知られた】

怪しげな男を尾ける。  
そこで首相の暗殺計画の全貌を知ってしまう。決行日は明日だ。

しかし、彼女に時を止める能力のことを知られてしまった？

### 【第三話 銃弾は止まるか】

たとえば手のひらに銃弾をめり込ませるなどして、暗殺を阻止する男。  
しかし彼の前にある男が現れた。  
彼も時を止める能力があるという。

### 【第四話 やつを止める方法とは】

そして敵に彼女が狙われる。  
彼女を救う方法とは。

(設定次第で、いかようにも続けられるフォーマットです。  
時を止める能力は未来からの干渉であるとか、  
パラレルワールドからの干渉であるとか、ただの超能力であるとか、  
時をとめた分年を取ってしまうが、暗殺計画を止めるには、おじいさんになってしまうほど時  
を止めないといけないとか。  
ドラマチックな展開にも、コメディ方向にも持っていけるので、  
それ以降はどうにも考えられます)

## 「少しずつ大きくなるユカ（仮）」第一話プロット、展開例

### 【第一話 服貸して！（1センチ大きくなる）】

ただの普通のOLのユカはある日誤って謎の薬を飲んでしまう。  
次の日、彼女は少し大きくなっていた。（1センチ）

デートに着ていく服がない！ 全部サイズが合わない！  
なんとかして背の高い同僚に服を借りに行くコメディ。  
彼にバレないかしら。ヒールが高いからと嘘をつくことにしよう。

しかし次の日、2センチ大きくなっていた……！

### 【第二話 服を買いに行く（2センチ大きくなる）】

服の趣味が変わってしまったと誤解されるユカ。  
しかしこれからどんどん大きくなってしまったらいったいどうなるの？  
とりあえず大きめの服を買いに行く。

しかし次の日、50センチくらい大きくなっていた。

### 【第三話 薬を渡した男（50センチ大きくなる）】

最初に誤って飲んだ男が、往来にいるのを見つけた！  
50センチ大きくなったユカは、走るのも早い（ストライドが大きくなっている）。  
ついに彼を捕まえたユカ。しかしその男は薬の正体は知らなかったという。  
その薬の謎を追うことに。

しかし次の日、1メートル大きくなっていた。

（のように、どんどん大きくなって行って、仕事は首になり、彼に相談するなり、どんどん話が大きくなっていきます。  
コメディ調なので、最後は宇宙から来た怪獣を倒すのは50メートルになったユカ、  
みたいな終わり方がいいかなど）